



Title	叡山醫伯淡輪元潜行狀
Author(s)	羽倉, 敬尙
Citation	懷徳. 1959, 30, p. 83-86
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90340
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

蔀山醫伯淡輪元潛行狀

羽倉敬尚

淡輪元潛。諱重弼。字子諧。號蔀山。筑後柳川藩主立花氏醫臣也。其祖出自源九郎義經之臣。佐藤忠信男重治。義經奔北與之時。忠信訣別而止京師。遂自決。重治尙幼。爲畠山重忠所養。冠諱。居和泉淡輪庄。因氏焉。母井出中將橘諸夏女也。改姓橘。重治十八世裔就澄。戰國亂離流落。仕筑後柳河藩主立花宗茂。曾孫重良致仕。出於大阪。業醫。稱元潛。享保元年歿于大阪。實阪住之初世也。男重泰紹。而又稱元潛。因緣仕立花氏。任大阪南江戶堀藩邸醫臣。給居于邸內。食五拾石。寶曆六年歿。無男。乃使重弼爲嗣。而稱元潛。弼實福山藩臣小森氏男。享保十四年生。少壯入京。受儒于皆川淇園。復學醫於山脇東洋。旣而歸阪。醫名漸高。增給百石。弼勉實驗索方。嘗東游三年。渡蝦夷望靺鞨而歸。更西行又有年。所獲不少。聲望聞海內。有神醫之稱。門弟頗多矣。小石元俊其一人。元俊承師名也。弼愛元俊之才。而薦介之於同門蘭醫永富鳳。後俊大成。弼交名流。與懷德書院學主中井竹山友善。

蔀山醫伯淡輪元潛行狀

弼長竹山一歲。竹山之長子蕉園。娶弼之長女。竹山捐館之後。弼制其像。使山之季子碩果。題遺詠于其上。可謂追懷故誼深厚也。弼嘗書中庸之語非誠無物四字。揭齋楣。足以知識見。至老矍鑠。文化五年三月九日。溘焉卽世。享年八十。諡貞惠。葬金城南夕陽丘梅舊院先塋。有遺著蔀山淡輪先生處劑錄五十六卷及若干編。妻播州田井醫山本節齋女。男政翼。初元碩。後襲名元潛。號無事菴。克繼父業。別養福山藩臣三箇鹿介元朔。元朔號無著。紹業遊歷而渡北海。又有令名。配蕉園妻之妹。季女適坐摩祠職渡邊氏。予幼而爲外祖之嗣。實京儒醫家並河之男。享保中。並河誠所先生。來大阪講書于懷德書院。又撰五畿內地誌。書院竹山父覺菴先生與阪商有志所創。而先生與誠所有誼。誠所晚卜居豆州三島而歿。無嗣。弟天民孫尙誠來阪。爲歿後之嗣。娶竹山之女。生男朋來。朋來紹述外祖竹山之遺蹟。經理書院。授徒。不墮聲譽。多受業。蔀山之孫三郎。又入門。後爲壻。朋來晚年鰥寡不遇。克

扶養之。餘因緣疾聞葦山先生名耳熟。中井小石二家又舊親也。而東住多年。久絕音。戰後歸西。頃訪三郎之養嗣乙松氏。復前誼。聞之於乙松氏。大正震後。故吳秀三醫博士。携二三子。訪淡輪家。採擇葦山等遺事。撮寫眞。博士臨去云。自今而略四十年後。葦山之事蹟可出于世。今博士既亡。事古不得知矣。而余之訪。殆該當博士先言。感慨有係焉。乃搜執遺事。而敬撰葦山醫伯行狀。寬政十年。葦山醫伯迎古稀。竹山季子碩果。贈壽詩。詩曰。

神方幾歲療疲癯 遠邇相傳瞻仰同
舊業有光瓜瓞頌 萬年無害劑和功
名園綠樹新晴後 壽席薰風廣坐中
七旬不待東庠養 請看令人甘蠶豐
可以銘醫伯也。

〔附載〕

筑後柳川藩醫淡輪家〔大阪住〕略系
俵藤太藤原秀郷十一世孫
佐藤四郎兵衛忠信の男
淡輪小次郎重治

父忠信、源九郎義經の平家西國追討に従軍し義經奥州下向後京師にて自刃、重治父の歿後、畠山重忠に養はれ其の諱字を稱し和泉國日根郡淡輪庄を領知し氏とす、重治の母は井手中将橘諸夏女

重治十八世孫

長左衛門就澄

初めて筑後柳川藩主立花左近宗茂に仕へ風斗氏を稱す

就澄三男

元潜

「祖先領地ノ儀ニ付心當アリ大阪へ罷越シ」〔後裔三郎記の家傳由來の文〕即ち大阪に出で醫を業とし後歸國す

就貞

源太郎、入道休順、元祿七、十、廿二歿六十九歳、淡輪氏を稱す

就貞三男、大阪定住の初代

重良

醫を修め元潜と稱し見龍と號し致仕して大阪に出で醫を業とす、享保元、十一、十歿、諡、元照、大阪夕日ヶ丘梅菴院に葬り以後葬地とす、

妻は和泉郷士のち大阪に出で商賈助松三郎兵衛女、貞、元祿九、十二、十四歿

二代

重泰

元潜、號、青々、舊縁にて柳川藩大阪藩邸醫となり知行五拾石、寶曆六、十一、廿五歿、諡、淨照院永安居士

妻は元阿波徳島藩臣、山下兵次郎女、圓、昭和三、十二、十一歿、安證院

女 備後福山藩臣、三箇兵藏、後角兵衛頼雄又名成虎の妻
(三箇氏は現大阪府大東市住ノ道元三箇村住の家
族にて室町末期カリシタン布教の功者三箇伯耆守
頼連の出でし家)

三代、養子

重 弼

實は福山藩臣、小森忠左衛門の男、初め安省、乗、元潜、
字子諧、號部山、百石知行加増、

文化五、三、九歿八十歳、諡、春照院貞恵

妻は播磨赤栗郡山崎町田井畑の醫、山本節齋女、登、文
化十三、十二、廿四歿、諡、春月院

養子

元 純

實は三箇頼雄末子、安永六、九、廿四歿、廿八歳

四代

政 翼

貞藏、初元碩又元朔のち元潜、字子羽、一枝齋、號祥鸞
天保五、四十三歿、五十三歳、諡、圓照院自明居士
妻は大和生駒藤井松平勘介領知代官矢野惣右衛門藤原

侍政女、梅、嘉永三、九、十八歿、諡、隨現院

女、淵 大阪懷德書院學主中井積善(號竹山)長子曾弘(號
蕉園)妻寛政五、十、十九歿、十九歳、諡、貞靜

女 福山藩醫三箇廉介意雄(元純甥頼雄——廉介時朗——
意雄)妻、竹、文化十二、十、八死、諡、春園院、夫、

廉介意雄、政翼、成人迄重弼及山脇東門に醫を受け養
子となり元朔と稱し無著と號し、政翼、成人後、意雄
と改む、

意雄、文政四、九、十一歿、五十七歳、諡、圓遊

院健芳

福山医伯淡輪元潜行狀

女 大阪座摩社祠官渡邊美作守冬一室、清、文化八、八、
十九死、諡、圓光院

五代

重 軌

京醫並河任齊及び蘭醫小石元瑞門又江戸遊學
太郎、貞藏、字は伯蓋、號駒岳、天保十一、二月
狂氣死、卅歳、諡、直入院照岳

六代

重 轄

京醫並河尙晋(任齊子)又小石元瑞並びに福井榕
亭門、江戸遊學、貞次郎、初め義叔父三箇意雄の
養子となりしが天保十一年、兄重軌死に依り、弟

女、保

生駒矢野彌平太政嗣(侍政弟)妻、彌太郎政敏の
母、政敏並河華翁門

七代

政 輻

三郎、號、直心軒、天保十一年、太郎歿せしに依り貞次郎
の後を受け三箇家を繼ぎしが、嘉永六年貞次郎死去に依り
又實家に復歸し相續、この三郎復歸に依り三箇家絶ゆ
明治廿三、十一月、大阪住より母の實家なる生駒矢野家

に妻子共移寓、同卅五、五、十五死、八十五歳、諡、恭
清、生駒矢野氏墓域に葬る、妻は懷德書院教授並河華翁
(中井竹山外孫)の女、豊菊、安政三、八月入嫁、明治

卅九、十、十三死、六十六歳

女

松枝、嫁がず、生駒町にて近郷婦女に家事裁縫教授
昭和十、十、廿七死、七十歳

養子

止 敬

部山医伯淡輪元潜行状

淡輪家は元柳河藩醫なる故明治維新廢藩置縣に依り藩邸柳川に引上の際、共に歸藩すべきものなるが、三郎は大阪に止り、明治二、十一月、同藩醫西原玄適男止敬を養子とし柳川に於て家名を相續せしめ、同十八、六月在大阪の三郎は、戸籍上隱居となれり、止敬、大正五、死、七十五歳、男、雄、元海軍主計中將

相續人

乙 松

元生駒村醫岡本五平の後にて、代官矢野氏舊臣、岡本氏五男明治十六生、同四三、養子、篤農家